ジオウ（地黄）

語　源

唐の時代の「日華子諸家本草（大明本草）」によれば、ジオウの根を水に入れ、浮かぶものを「天黄」、半分浮かんで半分沈むものを「人黄」、完全に沈むものを「地黄」と呼び、この比重の重い「地黄」が薬用に用いられた。

基　原

カイケイジオウ（懐慶地黄）　*Rehmannia glutinosa* var. hueichingensis
アカヤジオウ（赤矢地黄）　*Rehmannia glutinosa* var. purpurea
ゴマノハグサ科　多年生草本

カイケイジオウは河南省懐慶を主産地とする品種。現在流通している地黄のほとんどが輸入品で、その多くは中国産のカイケイジオウの根である。また現在、日本の市場には中国産の地黄として乾地黄と熟地黄の二種類がある。日本漢方ではあまり熟地黄を用いないため、日本で単に地黄といえば乾地黄のことを指すが、中国では熟地黄の方が広く用いられている。

薬用部分

根（そのまま、または蒸したもの）。漢方薬の地黄は製法により次のような名称がある。

■生地黄（しょうじおう）… 根を陰干しする　■乾地黄（かんじおう）… 生地黄を天日干しする
■熟地黄（じゅくじおう）… 生地黄を酒と共に蒸す

新鮮なものは鮮地黄という。一般的に地黄というと、乾地黄を指す。地黄は単体としてより調剤生薬として漢方処方に配剤することが多い。

産　地

中国、朝鮮半島、日本

主な薬効

血糖降下、強心、血圧上昇、利尿、緩下などに用いる。

主な成分

イリドイド配糖体：　カタルポール、レーマニオシドA～D
ヨノン配糖体：　レーマイオノシドA、B
フェネチルアルコール配糖体：　アクテオシド
オリゴ糖：　スタキオース、マンニトールなど

代表的処方

主として漢方処方用薬である。保健強壮薬、尿路疾患用薬、皮膚疾患用薬、婦人薬とみなされる処方、及びその他の処方に配合されている。

【八味地黄丸】

ハチミジオウガン
尿量の異常、口渇、下腹部腹直筋の緊張、ときに麻痺、性欲減退、腰痛、全身倦怠感、高血圧、脚弱などに用いられる。
（処方内容）　地黄／山茱萸／山薬／沢瀉／茯苓／牡丹皮／桂枝／附子

【四　物　湯】

シモツトウ
胃弱ではないが腹部軟弱で、臍の上部に動悸がある（血塊によるものといわれる）、貧血、下部出血、脈沈弱、月経異常、血の道症、不妊症、産前産後の諸病、乾性皮膚病、カリエス、婦人諸疾患に用いられる。
（処方内容）　当帰／川芎 ／芍薬／地黄

文献報告

【抗アトピー性皮膚炎】

Topical application of *Rehmannia glutinosa* extract inhibits mite allergen-induced atopic dermatitis in NC/Nga mice.

J Ethnopharmacol. 2010 Dec 1. [Epub ahead of print]

【抗うつ】

Antidepressant effect of Shudihuang on mice exposed to unpredictable chronic mild stress.

J Ethnopharmacol. 2009, 123, 55-60

※参考文献：「生薬単」「漢方マニュアル」「漢方のくすりの事典」「和漢薬の事典」「日本薬局方」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。

健やかな未来を創る自然の力
Power of Kanpou
福田龍株式会社

（お問い合わせ）　〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL：06-6364-5861　FAX：06-6364-6562
URL：www.fukudaryu.co.jp